

事業所の概要表

(平成 30年 5月 30日現在)

事業所名	グループホーム・シオンの家		
法人名	(有)介護支援サービスしのもと		
所在地	上浮穴群久万高原町上野尻甲535		
電話番号	0892(21)0635		
FAX番号	同 じ		
HPアドレス	http://		
開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input checked="" type="checkbox"/> 平屋 ( ) 階建て ( ) 階部分		
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	9 人
利用者人数	9 名 ( 男性 2 人 女性 7 人 )		
要介護度	要支援2 名	要介護1 名	要介護2 名
	要介護3 6 名	要介護4 1 名	要介護5 2 名
職員の勤続年数	1年未満 3 人	1~3年未満 1 人	3~5年未満 人
	5~10年未満 3 人	10年以上 5 人	
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人 介護福祉士 4 人 その他 ( ヘルパー2級 3人 )		
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )		
協力医療機関名	久万高原町立病院・うつのみや内科・砥部心療内科・渡部歯科・西本医院・畑の川歯科・みかわクリニック		
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 10 人 )		

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	20,000 円		
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円		
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円		償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
食材料費	1日当たり 1,100 円	( 朝食: 300 円 昼食: 400 円 )	
	おやつ: 円	( 夕食: 400 円 )	
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ( )		
その他の費用	・ 水道光熱費 400円/月		
	・ 冬期加算(11月~3月) 2,000 円		
	・ 円		
	・ 円		

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間			
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 4 回) ※過去1年間			
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間		
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員	<input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者	<input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input checked="" type="checkbox"/> 法人外他事業所職員	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ( )			

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成30年7月2日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	8	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	2		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3873400224
事業所名	グループホーム・シオンの家
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	渡部 香保里
自己評価作成日	30年 5 月 30 日

<p>【事業所理念】※事業所記入 優しい目 優しい手 主役はお年寄り</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 歩ける方や奉仕作業をできる利用者さんが少なくあまり参加できていないが散歩時にはできるだけ草引きなどをしてい る。今後は、参加し交流を深めるよう取り組みたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 テレビや新聞を見て、「ここに行きたい」と希望が出ることもあり、町内であれば天気や体調などを見ながらその日に出 かけられるよう支援している。  職員の配置を手厚くしており、利用者のその時々希望な などを支援できるよう努力している。  地元食材を使用し、旬のものや彩り、なじみあるものなどを 十分に採り入れて食事をつくっている。昼食には、利用者が 煮たフキが配膳されていた。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握		<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	○	<p>日々のかかわりの中で職員が、一人一人の思いの把握に努めている。本人の意向を第一にして、自分で決めることができるような声かけをできるように取り組んでいる。</p> <p>意思疎通の困難な方は家族の希望や本人の表情・様子などから把握し、希望に添えるよう努めている。</p> <p>家族や知人の面会時に、話を聞き取り把握に努めている。</p> <p>◎ 本人、ご家族の意向を伺いながら利用者個々の思いを整理し共有している。</p> <p>○ カンファレンスで、各利用者さんについての話し合いをする時間を設けている。月2回の介護相談員さんの訪問により、本人の思いなど知らせてもらっている。</p>	◎	◎	◎	<p>職員は、利用者との日々のかかわりの中で知り得た暮らしの希望などを全員分メモして、利用者個々の担当職員が毎月それをまとめている。 センター方式の私の姿と気持ちシートに、本人の言葉などを記録している。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握		<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	○	<p>利用者さんのこだわりや、大切にしていることは本人や家族から聞いたり、時々訪ねてくれる知人の方に情報を得ている。</p> <p>○ 廊下やトイレに手すりを付け、自分の力で立位するようにしてもらっている。玄関は座って靴が履けるようになっており、自分のできることやわかることは極力見守りで支援するよう努めている。</p> <p>○ ケース記録にその時の会話や表情を記録し、申し送りや連絡ノートで共有している。</p> <p>○ 被害妄想が強く、精神面で不安のある利用者さんはその都度話を聞き、把握に努めている。</p> <p>○ 1人1人の体調、ペースに合わせた生活を優先したケアに努めているが、重度化に伴い本人の希望に添えない状況も出てきている。その中でも、少しでも本人らしく生活しているように思っていたらいいような支援している。</p>			○	<p>入居時には、本人・家族から生活歴や大切にしてきたことを聞き取り、入居者情報に記入している。 家族から追加で得た情報はケース記録に記入し、連絡ノートで共有している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)		<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	○	<p>カンファレンス時、話し合う中での情報や、モニタリングなどで検討している。</p> <p>○ 人間としての、自由と尊厳を最後まで守るということを考えながら、どのように支援したらいいのかが検討している。</p> <p>○ 会いたい人、行きたい所、したい事等希望を聞き課題を明らかにしようとする努力している。</p>			○	<p>毎月のカンファレンス時には、介護計画見直し時期の利用者について話し合っている。</p>
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画		<p>a 本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。</p> <p>b 本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。</p> <p>c 重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。</p> <p>d 本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。</p>	○	<p>○ 少しでも本人の思いや、意向が叶えられるよう努めている。</p> <p>○ ケアプランの作成時には、家族や本人に希望を聞いたり、職員にはその人の望んでいることを書いてもらい、それをもとにプランを作成している。</p> <p>○ 重度になる前の生活に少しでも近づけるよう、努力している。</p> <p>△ 家族の協力体制は盛り込まれているが、地域の人たちの協力体制は盛り込まれていない。</p>	○	○	○	<p>情報収集した利用者の意向や職員の気付きなどをともに介護計画を作成している。 家族には事前に聞き取りをしているが、ほとんどの家族が「十分です」と言うようだ。</p>
5	介護計画に基づいた日々の支援		<p>a 利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。</p> <p>b 介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。</p> <p>c 利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。</p> <p>d 利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。</p>	◎	<p>◎ カンファレンス時、介護計画の内容を説明し、また、いつでも確認ができるよう個人のファイルに入れて、共有できるようにしている。</p> <p>◎ ケアを実践できたかどうかは毎月のモニタリングをすることで、支援につなげている。</p> <p>◎ ケース記録にケアの実践状況や日々の様子を記録し、気付いたことも記録するようにしている。職員同士も情報を共有しながら、実践や、介護計画の見直しに生かしている。</p> <p>○ 個別のケース記録に記入をしたり、連絡ノートに記入することで共有している。</p>	◎	◎	○	<p>○ 個人ファイルに介護計画を綴じ、いつでも見られるようにしている。</p> <p>◎ ケース記録にプランの「P」と記入してから実践状況を記入している。それをともに、毎月、全職員が○△×で評価し、ケアマネジャーがまとめている。</p> <p>○ ケース記録に記入している。</p> <p>○ ケース記録に記入している。それをモニタリング表にまとめている。</p>

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	入所当初は1か月、その後は6か月と利用者さんの状態に合わせて見直したり、状態が変わった時などにはその都度見直しを行っている。			◎	利用者個々の担当職員とケアマネージャーが時期を管理している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回のカンファレンスで現状確認を行っている。毎月のモニタリングでも確認している。			○	月1回のカンファレンス時には、計画見直し時期の利用者と、気になる利用者について話し合っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態が悪くなったり、変化があった時には、家族とも話し合いをし、随時見直しを行い現状に即した計画を作成している。			○	転倒など、身体的に状態変化した場合に新たな計画を作成している。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	代表に相談したり、その日の職員で話し合いをしている。内容は連絡ノートに記入をし情報を共有している。			◎	月1回、カンファレンスを行い、業務やケアについて話し合い議事録を作成している。緊急案件があれば、数名の職員でミニカンファレンスを開き、決定事項は連絡ノートに記入している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では何でも話し合える雰囲気にと務めているが、人前で話しにくい内容は個別に話せるよう努めている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	全員が参加できるよう、勤務を考慮し可能な限り皆が参加できるように工夫している。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加できない職員には、カンファレンス時の記録を見てもらったり、口頭で伝え共有している。			◎	議事録や連絡ノートを確認したら押印、サインするしくみをつくっており、印が揃ったかは管理者が管理している。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	連絡ノート、受診ノートがあり出勤時に確認した場合はサインするようにしている。			◎	医療関係についての連絡事項は受診ノートで申し送っている。また、業務や家族からの伝言は連絡ノートで申し送っており、確認した職員はサインするしくみをつくっている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	夜勤者→日勤→夜勤者へと申し送りを必ずするようにしている		○			
<b>(2) 日々の支援</b>										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者さん一人ひとりとはいかないが、その日したいことなど話しを聞き、できそうな事は叶えられるよう努力をしている。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	1人1人の持てる力に合わせて、買い物時の選択、おやつ時の飲み物の選択等、日常生活の中で自己決定できるように働きかけている。			◎	利用者に関わる時には、どうしたいかを聞きながら支援していた。昼食時には、調理担当職員がそうめんに青ゆずを添えるか聞いて回っていた。	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	おやつ時など自己決定ができるように、複数の品を見せて選んでもらうなどしている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースや時間に合わせて支援している。明日はパンを希望する人には、パンを用意するようにしている。					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	その人に合わせた言葉かけなどすることで、会話も広がっている。昔の歌や話をする事で興味を示さなかった人が会話に加わることもある。			◎	昼食前には体操したり、レクリエーションする時間を持っており、体操したり歌を歌ったりして過ごしていた。	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	意思疎通が困難な方も、声かけをすることで笑顔や、表情を見ながら本人の意向をくみ取った支援をするように努めている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	法人の理念である「自由と尊厳」を接遇態度において実施した言葉かけや対応に努めている。新人職員も含め今後も職員教育に力を入れて取り組んでいきたい。	◎	◎	◎	内・外部研修で勉強している。代表者がカンファレンス時などを捉えて話している。利用者に接する時には、本人の名前を呼んでからかかっていた。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	家族や外部の方が来られた時にも、大切にされているなど感じられるような優しい介護を心がけている。また、自分がされたいやだと思ふことはしないようカンファレンス時に毎回話している。			◎	職員などを支援できるような努力をしている。そうめんを食べにくそうにしている利用者、「切ってこようか」と聞き、台所で切ってから本人の前に持っていく場面がみられた。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレ誘導の際には、なるべく小さな声で対応したり、トイレチェック表で確認しながらプライバシーに配慮しながら行っている。					
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時は必ずノックをしてから入室するようにし、洗濯物を箆筒に入れる時や掃除をする時など、声をかけてから入室している。				○	利用者に「お部屋を見せてもらっていいですか」と許可を得てから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	カンファレンス時等、代表よりプライバシーの保護や個人情報漏えい防止の大切さを話しており、職員も理解している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	花作りや料理を教えてもらったり、食器拭きや洗濯物をたたんでくれた時等は感謝の気持ちを伝えていく。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、利用者さん同士で励まし合っている光景を目にする時がある。背中をさすってあげたり何かを手伝ってあげたりする姿を見ると、支えあう大切さを感じる。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする。孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	◎	仲の良い利用者同士が過ごせるよう配慮している。また、被害妄想の強い方は、難しく自分から離れて座ることを希望したこともある。			◎	昼食前には、テーブルを囲み数人の利用者と職員でカルタ取りをする様子が見られた。車いすを押してあげたり、背中をなでてあげたりと利用者同士が関わり合う場面がよくあり、事業所便りにも載せている。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	座る位置等、替えることでトラブル解消に努めている。他の利用者さんが不安にならないよう職員が中に入り対応している。					

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由 ・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ささえてきた人などは、本人や家族と話をすることで把握しているが、全員とはいかない。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	馴染みの場所を把握しており、その場所に出かけることもある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	以前から会いたい人に会うこともできた。本にの思いがくみ取れる支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	なじみの人達が、いつでも来てもらえるよう声をかけたり、居心地良く過ごしてもらえるよう配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	全員とはいかないが、買い物に出かけたり散歩などに出かけている。暑い日は、夕方涼しくなってきたら出かける等希望に沿えるよう取り組んでいる。	◎	○	◎	テレビや新聞を見て、「ここに行きたい」と希望が出ることもあり、町内であれば天気や体調などを見ながらその日に出かけられるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の人やボランティアの方も、高齢になっており協力を得る事は難しくなっているため、職員だけのことが多い。				ひなたぼっこしたり、近道を散歩したり、小学生の下校の見守り隊活動に参加することもある。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の利用者さんも車いすで散歩したり、天気の良い日は、日向ぼっこ等してもらっている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	広田のそうめん流しや、越智町のコスモス見に遠出したり可能な範囲で希望に沿うようにしている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修に参加し学んでいる。また、職員と症状を話し合ったり、かかりつけ医の先生にも聞くことで安心して生活ができるようにしている。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	簡単なリハビリ体操やカルタとりゲーム、しりとりゲームなどを行い、身体維持の機能、向上に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動している。(場面づくり、環境づくり等)	○	できそうなことは、極力まかせ見守るようにしている。	◎		○	毎朝、位牌に手を合わせる人がおり、本人が水やお茶のお供えを自分で行えるようサポートしている。
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	ひとり一人の生活習慣に合わせている。毎朝、仏様にご飯と水を供えるのが習慣になっている方もいる。				庭や畑の草引きをしたい人は行えるよう支援している。事業所便りには、家事を行っている様子を載せている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個別に一人ひとりの楽しみ事や家事など分担して行ってもらい、張り合いや喜びのある日々につなげている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域での役割ということには限りがあるが、小学生の下校時には見守り隊に参加している。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	1人1人の好みを優先し行きつけの理・美容院へお連れしたりその人らしいおしゃれができるよう支援している。職員がカットするときにも本人の好みの長さを聞き入れたりしている。				かっぱ着姿の人や気温などに合わせレースのベストを着ている人など、それぞれが清潔でリラックスできるような服装で過ごしていた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	入所する前に行っていた美容院に現在も家族の助けをもらい出かけている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員と一緒に考えたり、アドバイスしたりし把握している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時は、自分で服を選べる利用者さんには選んでもらい、できない人には家族が用意した服を着てもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	目やニや食べこぼしなど、職員がさりげなくふき取るようにして気持ちよく過ごしてもらっている。衣類のほつれなど洗濯物をたたむ時、気を付けている。利用者さんがほつれを直してくれる時もある。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望者は入居前に行っていた行きつけの美容室に行けるよう配慮している。職員がカットしていた利用者さんも美容室に行くことでリフレッシュできたと喜ばれる人もいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度になっても元気があった頃の髪形で過ごしてもらえるようにし、服装も本人らしさが保てるよう気を付けている。			◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員は食事を口から食べる大切さを理解している。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと  昼食には、利用者が煮たフキが配膳されていた。利用者は職員と一緒に食材の買い物に出かけたり食材の下ごしらえなどを行っている。  地元食材を使用し、旬のものや彩り、なじみあるものなどを十分に採り入れて食事をつくっている。  茶碗や湯飲み、箸、カップなどはそれぞれ自分のものを使用している。  職員も一緒に同じものを食べながら、利用者と会話したりサポートしていた。  食事の内容を説明して、時間をかけて介助している様子がみられた。職員が台所で調理している様子が見えたり、食材が見えたり、においや音がしたりする。昼食の冷やしうめんは、ガラスの器に彩りよく盛っていた。  食事に関して定期的話し合う機会は持っていないが、カンファレンス時には、利用者の食べ方の変化などについて話し合うことがある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	買い物や、食材の下ごしらえ、食器拭きなどそれぞれができる事をともにやっている。				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	買い物に行ける利用者さんは職員と一緒にいき、野菜選びをしたり調理の下準備を手伝ってもらう事で発揮できている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	特にアレルギーに関しては、入所当初に家族より有無を聞く事で把握している。また、本人の好き嫌いも把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	近所の方に頂いた旬の食材を取り入れ、季節感を感じてもらえるよう工夫している。庭の畑には野菜を植えて、みんなで成長を楽しんでいる。				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	嚥下困難な利用者さんには、言語聴覚士の資格を持っている職員に指導してもらっている。食べやすい大きさや柔らかさなど気を付けたり、食器なども工夫している。見た目の美しさも大切にしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家族が持ってきたものや持ちやすく、使いやすいものを選んでもらい使用している。				
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	ペースの速い人には、ゆっくり食べるよう声をかけながら食べてもらっている。				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度になっても食べる時、食事の内容を説明したり野菜を切っている音や、調理の臭い等感じてもらえるよう配慮している。	◎			
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分量や食事をチェック表に記入しており、職員間で共有している。糖尿病の利用者さんのご飯を量って出したり、ダイエットの利用者さんは量を調整したり対応している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	お茶にとろみをつけても、咽ていた利用者さんにはゼリーに変更することで食べることができている。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士はいないが献立表に作ったものを記入し同じものが重ならないよう気を付けている。メインは昼食が肉だったら夕食は魚にする等配慮している。						
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板は肉・魚、野菜と別々に使用している。食材も毎日買い物に行くことで、新鮮な食材を使用している。						
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は、食後に必ず口腔ケアを行うよう利用者さんに声をかけたり誘導している。				毎食後の口腔ケア時に目視している。気になることがあれば、記録して必要があれば受診につなげている。  毎食後に口腔ケアを実施できるよう支援している。昼食後には誘導して、声かけしながら支援している様子がみられた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	面倒。くさいとされなかった方にも、誤嚥性肺炎の説明をし、口腔ケアを行っている。				
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	往診してくれている歯科の先生より、正しい義歯の洗い方、自歯の磨き方等教えてもらっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	歯科衛生士さんより指導を受けている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	義歯の手入れは最初は利用者さんにしてもらう人もいるが、最後に職員がもう一度行っている。				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	不具合が生じたときは、希望の歯科に通ったり定期的な往診を受けたりしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能が高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来る限りトイレでの排泄を支援している。				夜間ぐっすり眠れるように、パッドの大きさについて検討した事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘の原因や影響は運動不足や、野菜嫌いもあると思われるが、職員はそれぞれの利用者さんのことを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	トイレチェック表や個人のケースに記録することで対応している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	以前は布パンツを使用していた方から、紙パンツにしたいと相談があり希望や状態に合わせた支援を行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分摂取の記録を見直したり、運動不足の解消に向けて体操したりしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	トイレチェック表や個人のケース記録を見ながら、それぞれ声掛け誘導している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	夜間のパットの種類を替えたりして快適に過ごせるよう支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者ひとり一人に合わせて、パットや紙パンツのサイズを使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	体操や、散歩等をしたり、おやつ時にヨーグルトを食べたりしてもらい自然排便がスムーズにできるよう取り組んでいる。中には薬に頼らなくてはならない利用者さんもいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴時には、本人にシャワー浴かぬくもりたかその都度聞いて対応している。	◎			庭仕事の後でシャワーを浴びたり、夏はシャワーで冬は湯船で温まるなど、希望にそって支援している。さらに、入浴を楽しむ支援という観点から、個々の入浴の習慣なども採り入れてはどうか。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	利用者さん一人ひとりがゆっくり入れるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	衣類の着脱は、本人のできないことを手伝うようにしている。体を洗える人は自分で洗ってもらったり、安心して入浴できるよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒む人には職員がいろいろ声をかけたり、本人が入ろうという気持ちになってから入浴をしている。また、どうしても入ってくれないときは日を変えている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前は必ずバイタルチェックをし、体調の確認をしている。また、体調が気になる利用者さんは主治医に相談して決めている。入浴後は水分補給に気を付けている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	一人ひとりの睡眠パターンは把握しており、夜間眠れてないと申し送りのあった利用者さんは朝、ゆっくりしてもらっている。				医師に状況を報告して検討しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れていない利用者さんに関しては、前日の過ごし方など話し合い、日中散歩に出かけたり、体を動かしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	薬剤に安易に頼るのではなく、日中太陽に当たってみたいレクに参加してもらったりと活動ができる場も考えている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人が横になりたいと訴えのある時は、自室で横になってもらったり、眠気の強い利用者さんも居室でゆっくり休んでもらっている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	電話をかけて欲しいと訴えのある時は、番号を職員が押し本人に手渡し話してもらったりしている。				対角線
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	葉書等は職員が本人に内容を聞きながら、代筆することがある。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも希望があれば電話がかけられるように配慮ができています。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人と一緒に内容を読んだり、代筆で相手の方に返事を出すなど行っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	携帯を持っている利用者さんもあり、いつでも電話をかけても構いませんと言われており、自由に話している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人が管理できる方については、家族と金額を相談し自分で買い物したりしている。				/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望時には、個別に買い物に行きゆくり買える時間を作っている。					
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	レジの方も利用者さんのことを知っている方もおり、声掛けなどしてくれる人もいる。					
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人が不安にならない程度の金額を家族と相談し、持っているが盗難にあう心配からしまうためその都度一緒に探している。					
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人や家族と話し合い、その人によって対応している。					
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	ホームに利用料を支払いに来られた時、預り金の内容を書いたノートの確認をしてもらっている。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人が受診したいと希望があれば、かかりつけの先生や治療院などその都度対応している。	◎		◎	自宅に戻ったり、墓参りや葬儀の参列など、利用者の希望には、職員が付き添い支援している。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	小規模多機能の裏にあり、道路からは見えにくい花を植えたり、玄関まわりに椅子を置いたりして工夫している。	◎	◎	○	道路沿いに事業所の看板がある。事業所玄関は、系列事業所建物の奥側にあり分かりにくい、系列事業所職員が案内してくれた。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等)。	○	台所と和室で調理しながら話ができる空間がある。	◎	◎	◎	木のぬくもりが感じられる造りで、畳の間にはテレビを置き、二面がガラス戸で外の風景がよく見える。玄関や居間の各所にアジサイを活けていた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	トイレ使用後は、確認に入るようにしている。混んでいる時には、いつでも職員用トイレを使えるようにしている。			◎	居間の天井は高く、天窓があり明るい。玄関や居間は網戸にして風が通っていた。掃除が行き届き、職員は裸足で過ごしていた。椅子の脚に消音のため、テニスボールをはかせていた。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングや個々の部屋に季節の花を飾ったり、写真を飾ったりしている。				○	花を活けていたり、窓から菜園が見えていた。利用者の自宅から大切にしている植物の鉢を持参して玄関に並べていた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者さん同士で話をしたり、外出したりしているが、自室で過ごすときもあり自由に過ごせる時間の工夫をしている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレや浴室は見えないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使っていた布団や本人の好みのもので、居心地良く過ごせるようにしている。	◎		○	カレンダーや家族写真を貼っていた。テレビやラジオなどを置いていたり、ビーズの自作品を飾ったりしていた。位牌を持ち込んでいる人がいる。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ローカには手すりがありそれを持って移動したり、トイレ内にも手すりがあるので、立ち上がりなどしてもらっている。自分が出ることはできるだけしてもらえよう配慮している。				居室入り口やトイレに場所の表示をしている。浴室には「ゆ」の暖簾を掛けていた。トイレトペーパーは、利用者の手が届く高さに配慮していた。車いすのレパーは、本人が操作しやすいようにラップの芯を使って工夫していた。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	居室には名札、トイレにはマークをつけたり、浴室には「ゆ」の暖簾を掛けており、判断ミスを最小にする工夫をしている。					
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	リビングに新聞や雑誌など置いてあり、いつでも手に取ることが出来るようになっている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	夜間以外は施錠はしておらず、いつでも出入りが出来るようにしている。	◎	◎	◎	日中、玄関やユニット入口などに鍵をかけていない。職員は「自分がされたら嫌なこと」として、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。調査訪問日の昼食後には、利用者のひとりが玄関のベンチで過ごしている様子を職員が時々そっと確認していた。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族もグループホームは鍵をかけないところだと理解している。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は鍵はかけていない。					
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	各利用者さんのケースに病歴などの情報を入れており誰でも把握できるようにしている。				/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日のバイタル測定や入浴時に身体の手チェックをしたり、小さな変化も見逃さないようにしている。ケースにも記録をしたり、申し送りしている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医や看護師さんに利用者さんの気になることを気軽に相談できる関係作りが出来ている。					



項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時は今までのかかりつけ医に受診しているが、寝たきり状態になった時は家族と相談し、24時間往診に来てくれる病院に代わってもらうこともある。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	看取りになったときなど、状態が変わるごとに家族にも加わってもらい、かかりつけ医の話を聞いてもらっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果や、変わったことなどは家族に連絡をしている。直接かかりつけ医より家族に話してもらうこともある。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時はフェイスシートやアセスメントなど持参し情報の提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	見舞いに極力行くようにし、安心して治療が出来たり、早く良くなってホームに帰ることが出来るよう、病院関係者とも話している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	病院関係者の中には町内の方が多くいることで、関係作りは出来ている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	かかりつけ医や看護師さんと、利用者さんの気づきの報告や相談など、出来やすい関係になっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでもかかりつけ医と連絡が取れるような体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者さんの、日頃の小さな変化なども職員間で報告し合うようにしており、それをかかりつけ医に話すなど早期発見につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	個人用の処方箋入れを作っており、職員も確認が出来るようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れのないように一人ひとりのくすりを朝・昼・夕とその都度クスリケースに入れていく。また、飲んでもらうときは、名前と日付を大きい声で言うことで間違えのないよう気をつけている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	周辺症状の誘発や食欲の低下などの症状が見られたときはかかりつけ医に連絡をし指示を得ている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者さんの細かい変化など、ケースに書いたり申し送りし、かかりつけ医や看護師さんに伝えている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	終末期について入居時や、状態が悪くなった時、段階ごとに家族や本人と話し合い、意向をその都度確認している。全職員に家族やかかりつけ医と話し合ったことは周知している。				◎ 利用者の希望をセンター方式の私の姿と気持ちシートに記入している。 代表者、管理者、家族で話し合った内容は、ケース記録に記入し、連絡ノートで共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	職員・かかりつけ医とその都度話し合いの場を持ち、連絡ノートに記入し共有している。	○			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	終末期の対応に関しては職員の思いも考慮に入れ夜間などは代表や管理者がいつでも来れるような体制づくりが出来ている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医療行為に関して、できないことの説明はきちんとしており、家族の理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	最期までグループホームでと言われる方は、かかりつけ医が24時間対応してくれるという安心のもと、支援をしていく体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	終末期に入り、家族が泊りたいと言えば泊まることができる体制をとっている。家族間での相談も受けている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の研修に参加しており、カンファレンス等で報告することで学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	職員は来た時と帰る時、手洗い、うがいをした印をチェック表につけるようにしている。また、嘔吐があった時のグッズを準備しており、手順など話している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	地域ケア会議等で地域の感染症の状況などの情報を入所している。法人内で発生したときは速やかに連絡を取るようになっている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	隣接する施設に職員の子供が幼稚園や小学校に通っており、情報が早めに伝わりやすいので随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いや、うがいをしよう徹底している。来訪者にも声をかけている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会に来た時など本人を交え職員と一緒にお茶を飲んだり、話をする中で関係を築いている。				法人全体で行う敬老会時と運営推進会議で食事をを行う折に、家族全員に案内をしている。  事業所便りや毎月の手紙、必要時には電話したり、海外にいる家族には、SNSで写真や動画を送って日常の様子を伝えており、喜ばれている。  来訪時に報告するが、遠方の家族に報告する機会は少ない。運営推進会議で報告するが、会議録を閲覧する家族はほほいしない。  来訪時には、ケース記録をもとに説明したり、実際のケアを見てもらうなどして気がかりなことや、意見、希望を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族もリビングで他の利用者さんも含め話をしたり、自室で話したり、居心地良く過ごせる雰囲気づくりを行っている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族に敬老会に参加してもらったり、誕生会にも参加できる家族さんには来てもらい一緒に祝いをしてもらっている。運営推進会議で食事をし、近所の人と一緒に食べる機会を作っている。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	来訪してくれる家族さんには、ケース記録に目を通してもらったり、毎月手紙を添えて近況報告して、シオン便りも送るようにし様子を伝えている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会に来たときに知りたいことを尋ねる家族もいる。聞かれて説明しにくい時は、代表や管理者から伝えてもらっている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症への理解が十分でない家族もいるので、接し方の説明をしたり対応など家族がかかわることの大切さを支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	法人内の異動や退職等カンファレンス時報告をしている。また、異動に関しては職員と代表が話し合い理解を得てもらっている。	△		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族同士の交流は、運営推進会議や敬老会などの行事に参加してもらった時に図られている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	代表が大切にしている自由の尊厳ということをいつも考え、危険がない限り自由にしてもらっていることの説明を家族にもしているが、リスクがあることの説明もしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	家族が気軽に聞けるような雰囲気づくりを作っており、職員からも話しかけるようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入院が長引く場合等家族と話し合い、理解し納得してもらっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	過去時には、フェイスシートやアセスメントで状況を伝えられるようにしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	家族に改定時には理由など詳しく明記し文章化したり、説明をし同意を得ている。				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立段階より地域の組寄りや運営推進会議などで説明している。		◎		町の夏まつりや商工会のくまぐるまるしえに出かけている。 小・中学校の運動会に出かけ利用者も競技に参加できるよう支援している。 小学校の見守り隊の活動を続けている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	事業所は町なかにあり、日常的な挨拶や町内会への参加等積極的に参加している。地域の災害訓練では車いすでの移動を近所の人が手伝ってくれた。		◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩中声をかけてくれる人が多い。				
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近所の方が畑を見にきたり、声をかけてくれる人もいる。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩中、声をかけてくれた人と腰かけて話したりする人もいる。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	避難訓練時は近所の人にも声をかけ参加してもらい、避難した利用者さんの見守りなど行ってもらっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源はわかっていないことも多いので、今後個々のマップを作り支援ができるようにしたい。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の人たちを交えた認知症に関する研修を、毎年開催し、理解を求めている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者さんにもなるべく参加してもらっている。家族は忙しく、参加が難しい。	△		△	基本的には系列事業所合同で会議を行っており、その後、各事業所に分かれて話し合っている。相談員、利用者の参加はあるが、家族の参加は少ない。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営推進会議の中で、利用者さんの現状や評価への取り組みなど報告している。			○	外部評価実施後は、評価結果、目標達成計画内容を報告している。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議の議事録など目を通せるよう、回覧している。			○	△	会議メンバーから褒めてもらうことが多く、意見や提案はほぼ出ないようだ。いろいろな意見や提案などを聞けるような会議に工夫してほしい。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程などは他の会と重ならないように気をつけるようにしている。			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	「開示」のファイルに入れており、誰でも見えるようにしている。					
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	月1回のカンファレンス時、職員全員で法人の経営理念を唱和している。理念に基づいたケアに取り組んでいる。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入居の際に伝えたり、運営推進会議でも伝えていく。	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修に関しては法人内外の研修に参加するよう声などかけている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	計画的には行っていないが、講師を招いて職員全員で研修を受ける機会を設けスキルアップにつなげている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	代表がホーム内にも足を運んでおり、それぞれの職員のことを把握している。管理者も職員の気づきなど話す機会を設けている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会の会員になっており、中予地区の研修に参加している。相互研修にも参加しており、職員の意識向上に取り組んでいる。					年に数回、法人内の職員で食事会を行い親睦を深めている。代表者はいつも近くに居り、いつでも話を聞いてもらえる環境がある。子育てや親の介護などがしやすいように勤務時間など考慮されており、そのような取り組みの成果は、職員の勤続年数をもてわかる。
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	相談を受けやすい雰囲気づくりに努め、ストレス解消のため、食事会なども行っている。	○	◎	○		
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	虐待防止の研修に参加し、報告を聞いたり、代表より不適切なものはなにかをカンファレンス時等話しがある。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その都度、日々のケアについて話し合える場を作るようにしている。振り返ったり、こうしたら良いのではないかなど話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切と思われる行為を発見したときは、職員同士で言い合える仲間づくりをしている。もし、これらの行為を発見した場合の対応方法は知っている。			◎	研修で学んでいる。代表者は、毎月のカンファレンス時に「お互いで注意し合おう」と話している。	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の様子を日常的に注意をし、管理者より気になる職員に関しては、代表に話すようにしている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束などの研修を受けカンファレンス時、報告し正しい理解に努めている。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	どのようなことが身体拘束に当たるのかということ、代表や、管理者が話し合う機会を作っている。また、職員間でも「おかしいな」と思うことは注意し合える職場でいようと話している。					
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からそのような話があっても、身体拘束にあたることを説明し「しるもとの、危険がない限り自由にしてもらう」というケアの取り組みを説明している。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	以前は成年後見制度を利用している利用者さんがいたが、現在はいないので職員全員とはいかない。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談にのり実際に包括や社協に相談するなどの支援を行っている。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要時は連携体制がとれている。					

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由 ・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは作っており、誰でも見る事ができるようになっている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	救急法の研修を、毎年消防署職員により訓練を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットノートを作成し記入しており、確認後は印をおしており、その都度話し合いを持っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者のリスクはその都度話すようにしている。ヒヤリハットに記入したものを確認し、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情マニュアルは作成している。カンファレンス時、代表より対応方法について話がある。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	過去にそういう事例はないが、あった時は速やかに行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	過去にそういう事例はないが、あった時は速やかに行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	介護相談員さんの訪問が月2回あり、意見や要望など話す機会がある。			○	運営推進会議に参加する利用者は機会がある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口があることは入所の際に家族にも話しており、契約書にも記載されている。	○		△	苦情相談窓口はあるが、意見はない。運営推進会議に参加する家族は機会があるが、参加しない家族は機会が少ない。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	必要に応じ情報提供は行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	◎	代表は現場でも働いており、現場職員の意見や要望など吸い上げる機会が多い。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員は一人ひとりの意見を聴く機会を持っているが、直接管理者に言えない事は、主任を通じて言ってもらおうようにしている。利用者さん本位の支援についてもいつでも話し合うようにしている。			◎	管理者も職員と一緒にケアに取り組みながら日々の中で聴いている。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価は意義や目的を見直すことで、理解している。				運営推進会議時に、評価結果・目標達成計画について報告をしているが、家族参加は少ないため知らない人もいる。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	現状や課題が見られるようになり、意識統一に役立っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、達成に向け取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議などで、評価結果・目標達成計画を報告している。	△	◎	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画に掲げた取り組みの成果を話している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	様々な災害の対応マニュアルを作成し、職員に周知している。				運営推進会議と併せて避難訓練を実施した際には、地域の人に見学してもらった。地域の防災訓練には、職員と利用者2名が参加した。地域の実状を踏まえて、さらに具体的な協力・支援体制を確保してほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	避難訓練は昼間帯と夜間帯、災害時を想定した訓練を消防士さんの指導の下、できるよう計画している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	非常飲料など賞味期限が切れていないか等の確認も踏まえ補充など行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議の中に避難訓練も組み込まれており近所の人達にも、何かあった時は助けに行くと声をかけてもらっている。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の災害訓練にも参加している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	法人内で講師を招き、認知症の勉強会を行うときは地域の方にも声をかけ参加してもらっている。				入居相談で来訪する人の介護相談を受けることはあるが、今後は、地域のケア拠点としての取り組みに工夫してみしてほしい。  法人全体の取り組みとして、高校の文化祭時に、カレーライスをつくり、バザーに協力した。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	家族や地域の人から相談があった時は、支援できる体制を整えている。今時点ではない。		◎	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地域の人がいつ来ても良いように開放はしているが、小規模多機能が隣接しており、イベント等合同とする事が多い。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	中学校の職場体験の受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のイベントにも参加している。			○	